

赤ちゃんから高齢者まで
やさしさとかかりやすさを
めざして

公益社団法人
北海道勤労者医療協会
勤医協札幌病院

広報誌

14

2014.12



3-2病棟 主任
看護師
中川 舞

第1外来 主任
看護師
伊藤 美沙

リハビリテーション科 主任代理
言語聴覚士
竹中 寛之

広報誌リニューアル記念特集

もっと

勤医協札幌病院の医療を
知ってほしい!

院長メッセージ

全ての人が幸せに生きられる
地域社会のために

勤医協札幌病院 3つの特長

1. 総合診療医
2. ロービジョンケア
3. 安心・快適な出産環境

勤医協札幌病院の医療を
もつと 知ってほしい!

めざしているのは 赤ちゃんからお年寄りまでを支える やさしい地域病院



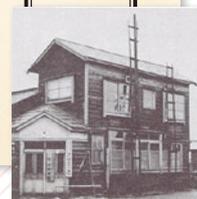
勤医協札幌病院 65年の歴史

当院の前身「白石診療所」が誕生した白石町は、サムライ部落と呼ばれる掘立小屋が並び集落や労働者街が形成されていました。しかし、近くに診療所はなく、半日ばかりで市立病院に通っていました。

そうした中、「ホクレン」の労働組合委員長を務めた川口武夫氏が、勤医協札幌診療所の塚田龍爾所長を訪ねて実情を訴えました。診療所友の会ができ、カンパを集め、1949年（昭24）11月15日、川口氏の自宅が「白石診療所」となりました。自転車で駆け付けた塚田医師が午後から診療を開始し、川口氏の妻が事務員として働きました。

1952年（昭27）に隣地へ新築移転。必要な医療機器は、地域住民の募金で徐々に拡充しました。

無床だった診療所は1958年（昭33）7月に30床を有する菊水病院となり、1964年（昭39）1月には名称を「勤医協札幌病院」と変更し、現在地に新築移転。その後、増改築を重ね、1980年（昭55）1月に総合病院として認可を受け、現在の当院へと発展しています。



1954年当時の白石診療所

全ての人が幸せに生きられる地域社会のために

勤医協札幌病院 院長 堀毛 清史



内科・循環器科
堀毛 清史 (ほりけ きよし)
兵庫県出身。1980年に旭川医科大学卒。
2008年4月から勤医協札幌病院院長に就任。
同年5月から北海道勤医協理事長。

近年、札幌市でも高齢者の孤独死が相次いでいます。その中には当院に入院していた患者さんや民生委員が関わっていた高齢者もいました。市内の孤独死は毎日約10人、北海道全域では年間6035人という報告もあります。札幌は日本の政令都市の中で高齢化が最も速く、独居の高齢者も急増しています。年齢を重ねるとともに慢性疾患を複数抱えるようになることから、地域社会に必要なのは高齢者をしっかりと支えることができる医療です。風邪や腹痛などの日常の病気や高血圧症や糖尿病といった生活習慣病はもちろん、認知症や廃用性症候群などを幅広く診る「総合診療医」の役割が高まるでしょう。

既に勤医協札幌病院では2年ほど前から内科外来の中で総合診療医が診療を行っています。指導医もいることから積極的に研修を受け入れ、社会的使命感を持って総合診療医の育成に力を注いでいます。実力をつけた総合診療医が北海道各地でその力を発揮し、北海道の医療水準向上に力を発揮してくれるものと信じています。

勤医協札幌病院では、10の診療科で総合的に診療を行いながら、さらに在宅診療を強化することで、高齢者の不安を解消したいと思っています。

地域住民が安心して暮らせるよう、近隣の病院や診療所との連携を進め、町内会や行政とも協力し合いながら、全ての人に必要な医療が届く街づくりに貢献したいと思っています。

地域住民とともにある地域医療を

勤医協札幌病院、地域の医療機関、介護事業所、行政、町内会、商店などが協力し合い、高齢になっても安心して暮らせる街づくりを進めます



日常の病気や生活習慣病を深く継続的に診る
総合診療医 があります

住み慣れた家で生活を送れるよう
訪問診療・往診 を行っています

勤医協札幌病院

さまざまな疾患の治療に対応する
10の診療科 があります

地域の皆さんが健康管理を学べる
医療セミナー を開催しています



内科 	外科 	産婦人科 	眼科 	小児科※
神経科・心療内科 	整形外科 	耳鼻咽喉科 	労働衛生科 	麻酔科

※勤医協菊水子ども診療所

独居の高齢者への支援を重視しています

- 日常生活に不自由がある
- 経済的困難がある
- ご近所付き合いがない

※札幌市には生活の便利さを求めて地方から移住する高齢者が多く、また、出生率が低いため、高齢化が進んでいます





日常的な病気を 正しく深く診ます 「まち医者」のような専門医



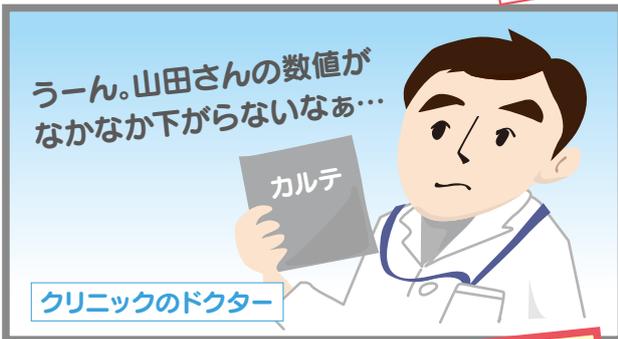
内科 副科長

さとう けんた
佐藤 健太

東京都出身。
2005年東北大学医学部卒。
2011年勤医協札幌病院に着任。より多くの患者さんに対応できる診療能力を身につけたいと家庭医療専門医を取得。2012年内科医長。2013年に指導医に。2014年に第5回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会「日野原賞」受賞。2014年内科副科長。日本内科学会認定医、日本プライマリ・ケア連合学会認定家庭医療専門医・指導医。

勤医協札幌病院では、内科外来の初診患者さんに、まず総合診療医の診察を受けていただいています。総合診療医は、風邪や軽い腹痛などの日常の病気の診療のほか、「どの診療科を受診していいのか分からない」「複数の症状が出ている」「ほかの病院で診断がつかなかった」という場合に診断を行う専門医です。一人ひとりの患者さんの生活環境や職業にも視野を広げながら、症状の原因を探ります。

こんなとき **あなたは** どうしますか？



困ったり不安になったら… 勤医協札幌病院へ ☎ 011-811-2246

日本の医療を大きく変える 「総合診療医」

今まで日本では医学・医療の専門分化により、医師は疾患別・臓器別に高度医療のスキルを取得してきました。ところが、日常的によくある病気の臨床経験が多いとは言えず、難しい肺炎の診療は得意でも、多様な症状を示す風邪の診療は「専門外」になってしまおうという現状がありました。

そこで、「よくある病気を正しく深く診て生活の質を上げ、継続的な健康管理によって重篤な疾患を早期発見したい」という目的を掲げて誕生したのが「総合診療医」です。2013年秋に発足した「日本専門医機構」が、「総合診療医」を専門医の一つとして認定することを決め、その重要な役割が改めて注目されています。

全ての患者さんを 最初に引き受ける専門医

総合診療医は最初に患者さんを診断する役割を担います。各診療科の専門医とは異なるスキルを持ち、症状や身体診察から診断を絞り込みます。風邪や腹痛などのよくある病気や生活習慣病を診療し、必要に応じて専門医につなぎ、往診も行います。

患者さんの生活環境や社会的背景を視野に入れ、食生活や運動、喫煙、飲酒などについてアドバイスし、予防活動や地域全体に健康を広める啓発活動を行うなど「まち

医者」のような働きをします。

また、地域の介護支援専門員などと情報を共有しながら、介護と医療の連携を図ります。

専門医や開業医と 連携しながら診療を継続

当院の内科外来で、総合診療医が患者さんを診る体制がスタートしたのは2013年4月。勤医協独自の養成プログラムで幅広い病気に対応する診断知識と臨床能力を習得した総合診療医7人が、外来・病棟・往診で診療を行っています。日常的な体の不調に重大な病気がないかを探り、複数の症状を関連付けて診断するなど「深く」診るスキルを持ち、そのトレーニングを続けています。

基本的には同じ医師が一人の患者さんの複数疾患を継続して診るため、患者さんが多くの医療機関を渡り歩かずに済みます。無駄な投薬も重複する検査もありません。当院の内科専門外来では、勤医協中央病院の専門医が週1回外来診療を行っているの

で、生活習慣病の専門治療も受けることができます。

また、高齢社会で必要とされる認知症ケアや緩和ケアなどの医療を継続的に提供するためには、当院と地域の開業医がサポートし合う関係が必要です。地域の医療者との連携を増やし、「地域で支える医療」の基盤を作りたいと思っています。



勤医協札幌病院 内科専門外来

- 心臓専門外来
- 消化器・肝臓専門外来
- 腎臓専門外来
- 糖尿病・甲状腺専門外来
- リウマチ専門外来
- 禁煙外来
- 健診後外来
- 高齢者外来



患者情報を共有し議論を交わす総合診療医のカンファレンス(症例検討会)

総合診療医

佐藤健太、宮澤元、樋口智也、菅藤賢治、菅藤佳奈子、大久保彩織、佐賀加奈子

研修医受入実績

2014年度 6人



見えにくい「不自由」を ライフスタイルに合わせて援助

ロービジョンとは、種々の原因で視力などの視覚機能が低下し、眼科的治療で回復が見込めない状態のことで、日常生活や就労などの場で見えにくいため不自由が生じます。勤医協札幌病院ではロービジョン外来を開設し、見えにくい状態での生活を継続的にサポートしています。

**ロービジョン者は
道内に約5万人**

近年、社会の高齢化の進行に伴い、ロービジョン者が増加しています。道内には約5万人のロービジョン者がいるといわれていますが、視覚の障害は外見からは分からないことが多く、その不自由さが周囲から理解されにくい傾向があります。

当院が本格的にロービジョンケアに取り組み始めたのは、道内での対応医療機関がまだ数カ所しかなかった2007年。現在では20カ所を超える道内ロービジョンケア対応医療機関の拠点となっています。

**限られた視覚機能を
補助具などでサポート**

ロービジョン者には、「視力が低下している」「視野が狭い」「まぶしくて見づらい」など、さまざまな症状があります。限られた視覚機能を上手に活用し、さらに視覚に頼らない方法も含めて、日々の暮らしを支

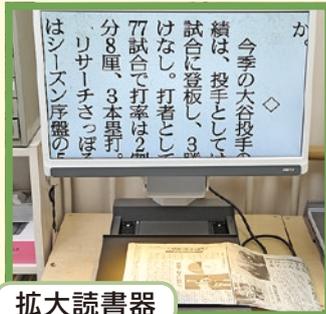
ロービジョン者を 支える 視覚補助具



拡大鏡



遮光眼鏡



拡大読書器

えるのが、ロービジョンケアです。

ロービジョン外来では、拡大や遮光など特殊な用途のレンズ類や、見え方を補助する視覚補助具をそろえ、「新聞が読みたい」「パソコンの画面を見たい」「駅で電車の行き先を確認したい」など、それぞれの患者さんのご希望と見え方の状態に応じて、実際に補助具の使用を体験していただき、最適な方法を探します。また、盲導犬協会や盲学校などの専門機関との連携を含め、種々の社会資源についての情報を提供し、ロービジョンのお子さんから高齢者まで、ライフスタイルに合わせた援助を行います。

ロービジョン外来

(木曜日午後)

予約制

初回は眼科の一般外来を受診していただき、次回以降のロービジョン外来を予約します。遠隔地や通院が困難な場合は電話でご相談ください。

勤医協札幌病院 眼科外来

☎ 011-811-2246【代表】

対象疾患 網膜色素変性症、加齢黄斑変性症、強度近視、糖尿病網膜症、緑内障など

患者さんにお持ちいただきたいもの

- かかりつけの眼科の先生からの紹介状
- 現在お使いの眼鏡
- 現在お使いの視覚補助具
- これを見たいという見本（読み物、各種印刷物など）
- 身体障害者手帳（該当の方のみ）



眼科 副科長

ながい はるひこ
永井 春彦

京都府出身。

1987年札幌医科大学医学部卒。

カナダやアメリカへの留学でロービジョンケアを学ぶ。2000年の日本ロービジョン学会創設に参加、2013年まで同学会理事。2006年から勤医協札幌病院勤務、眼科副科長。現在、北海道眼科医会ロービジョンケア推進委員長、日本眼科医会ロービジョンネットワーク検討会メンバーとして、道内外でロービジョンケアの普及・啓発に関わる。



3つの特長

安心・快適な 出産環境



産婦人科は昨年5月、家庭的な雰囲気の中でリラックスして出産できるよう、病棟をリフォームしました。また、勤医協札幌病院は、出産費用の公的助成が利用できる「入院助産施設」の指定を札幌市から受けており、安心してお産に臨むことができます。

「新しいのち」を 家族と安心して迎えられます



4人部屋を個室に
リフォームした広い病室

リビングのようなLDR室で
陣痛・分娩・回復

LDR室は陣痛から産後5時間までを過ごす個室で、LDRとは陣痛(Labor)、分娩(Delivery)、回復(Recovery)の意味です。新しいLDR室では、家庭的な雰囲気でもリラックスしながらお産が進むため、妊婦さんの痛みや負担が軽減。ご主人やご家族の立ち会いもスムーズになりました。

病室は4人部屋を全て個室に変更し、ご家族と一緒に気兼ねなく過ごせる広さを確保。桜の花模様の壁紙と木目の床でくつろ

小児科医・心療内科医・
麻酔科医がサポート

ける空間に変わりました。

入院中は、当院の「小児科医」が病室を回り、新生児の健康状態を毎日診ています。産後のお母さんが精神不安定になっても「心療内科医」が診察します。

帝王切開の大部分は、経験豊富な「麻酔科医」が担当します。ご主人の立ち会いにも対応しているのでご相談ください。痛みを安全にコントロールし、早期の離床・母児接触を心がけています。



産婦人科 科長
ながしま かおり
長島 香

高知県出身。
1987年徳島大学医学部卒。
第1子は徳島で、第2子は勤医協札幌病院で出産。「妊婦さんに快適な環境を提供したい」と外科医から産婦人科医に転身。2014年に産婦人科科長。

LDR室



ひのき
(和室)



さくら
(洋室)



いちよう
(洋室)

さくら

LDR室のプレートは
長島医師の娘さんの手作り

幸せな出産を願う取り組み

- 出産2日後のお祝い膳
- 産後のリフレクソロジー
- 英語通訳者を配置



2014年10月にスタートした妊婦健康体操
※エアロピクスインストラクターが講師を務めています

患者さんやご家族のご相談に応じています

医療費のことで 困ったら 医療福祉 相談室

病院1階
内科外来
向かい



医療ソーシャルワーカー
下原 梓

医療福祉相談室では、社会福祉士の資格を有する医療ソーシャルワーカー4人が「病気やけがによって発生したさまざまな問題の解決支援」や「無料・低額診療制度」の手続きなどを行っています。

相談者の多くは白石区やその周辺にお住まいの方で、さまざまな事情や困難を抱えています。共働きの両親が非正規雇用のため収入が少なく、喘息の子どもの治療費に困っていたり、「お金がないから検査を受けられない、薬を減らしたい」とお話しされる高齢の方もいます。医療費の支払いの心配をせずに治療に集中していただけるよう、患者さんに寄り添った支援をしています。

また、認知症の患者さんの医療に関わる相談やご家族の介護についての相談にも応じています。一人で悩まずに相談室へお越しください。

相談員

課長 桜井 享弘
係長 大門 真
西村 響子
下原 梓

相談受付時間

月～金 9:00～12:30
13:30～17:00
土 9:00～12:30
※第4土曜日を除く



A

就学援助を受けている児童・生徒本人だけでなく、ご家族も対象になります。「保険証」「印鑑」と学校から通知される就学援助の結果通知書をご用意ください。

Q

就学援助を受けている世帯も対象になりますか？

A

同居者全員の収入が分かる書類（給与明細書や年金送付ハガキなど）、通帳、印鑑（本人のみ）をお持ちください。

Q

申請にはどのような書類が必要ですか？

無料・低額診療制度 Q&A

A

経済的な理由で治療を受けることができない方が対象です。詳しくはお問い合わせください。

Q

無料・低額診療制度を利用したいのですが、どのような人が対象ですか？

勤医協札幌病院

〒003-8510 札幌市白石区菊水4条1丁目9-22

☎011-811-2246 FAX 011-820-1245

E-mail satu-soumu@kin-ikyo.jp ホームページ <http://www.satsubyo.com/>

- 地下鉄東西線「菊水駅」1番出口から徒歩3分
- 勤医協中央病院との連携バス運行

病床数105床

【診療科目】内科、外科、整形外科、産婦人科、耳鼻咽喉科、眼科、労働衛生科、神経科・心療内科、麻酔科

【専門外来】心臓専門外来、消化器・肝臓専門外来、腎臓専門外来、糖尿病・甲状腺専門外来、リウマチ専門外来、禁煙外来、高齢者外来、健診後外来、めまい外来、ロービジョン外来、更年期外来、母乳外来、療養外来、アスベスト外来、装具外来

【健診】特定健診、後期高齢者健診、各種がん検診、企業健診、人間ドック

【関連施設】勤医協菊水子ども診療所（小児科）

基本理念

1. 赤ちゃんから高齢者まで、やさしい病院をめざします。
2. 安全・安心・納得の医療を実践します。
3. 憲法を守り、安心して暮らせるまちづくりに貢献します。

基本方針

- 地域に根ざし、保健予防から在宅医療まで、無差別・平等の医療を実践します。
- 地域の中で、医療機関や事業所・施設との連携を強め、患者さんに信頼される良質で安全、安心できる医療を提供します。
- お互いに学び、成長し合える職場、病院づくりに努力します。
- 患者さんの立場に立ち、民主的な集団医療を実践できる医療人の養成をめざします。
- 安心して暮らせる地域をめざし、憲法と平和、環境を守る取り組みをすすめます。